

Prognostic Impacts of Plasma Levels of Cyclophilin A in Patients with Coronary Artery Disease

著者	大槻 知広
学位授与機関	Tohoku University
学位授与番号	11301甲第17719号
URL	http://hdl.handle.net/10097/00123765

学 位 論 文 要 約

博士論文題目 血漿中 Cyclophilin A を用いた冠動脈疾患患者の予後予測能の評価

(Prognostic Impacts of Plasma Levels of Cyclophilin A in Patients with Coronary Artery Disease)

東北大学大学院医学系研究科 医科学 専攻

内科病態学 講座 循環器内科学 分野

学籍番号 B4MD5026 氏名 大槻 知広

近年、心筋梗塞や狭心症などの冠動脈疾患の治療法は著しい進歩・発展を遂げた。しかし、心筋梗塞の発症前診断は依然として困難である。無症状の患者の発症前診断は循環器専門医でも難しく、発症した時点で致命的であり、病院までたどり着けずに救命に至らない患者も多い。したがって、心筋梗塞の発症前診断法開発は重要性を増している。冠動脈狭窄のある患者は冠動脈疾患のない症例に比べ、血漿中サイクロフィリン A 濃度が有意に上昇し、さらに、重症度とも相関していることが既に報告されている。しかし、血漿中サイクロフィリン A 濃度の上昇がその予後や将来の心筋梗塞発症との関連にどのように影響しているのかは未だ明らかになっていない。

本研究では、虚血性心疾患が疑われ、東北大学病院で心臓カテーテル検査を行った 2007 年から 2014 年までの連続 531 症例の血漿中サイクロフィリン A 濃度を測定した。全死亡、再入院、再血行再建術をエンドポイントとして、その追跡可能であった連続 511 症例について予後調査を行った。

結果、動脈硬化性の冠動脈疾患を有する症例群で、血漿中サイクロフィリン A 濃度高値群(≥ 12 ng/ml)で血漿中サイクロフィリン A 濃度低値群(< 12 ng/ml)と比較して、全死亡、再入院、再血行再建の発生が統計学的に有意に高かった。現在まで、冠動脈疾患を有する患者の血漿中サイクロフィリン A 濃度を測定し、その予後調査を行った報告はなされていない。今回、予後調査を行うことで、再血行再建術のイベントがサイクロフィリン A 濃度に依存して有意に上昇することが示され、将来の冠動脈狭窄を血漿中サイクロフィリン A 濃度で予測可能であった。さらに、追跡期間中で心筋梗塞発症症例が 3 例認められたが、いずれも血漿中サイクロフィリン A 濃度高値群(≥ 12 ng/ml)で、血漿中サイクロフィリン A 濃度低値群(< 12 ng/ml)での心筋梗塞発症は認められず、サイクロフィリン A 濃度を 12 (ng/ml)でカットオフした場合、将来の心筋梗塞発症の除外が 100%の特異度で可能な結果であった。

本研究の結果、サイクロフィリン A は冠動脈疾患を有する患者群での予後予測及び、心筋梗塞の発症前診断に有用なバイオマーカーである可能性が示唆された。